

1 学校経営の方針

1 第二中学校の教育理念（ミッション）

これからの社会に生き、共によりよい社会を創り出すことができる人を育てる

予測ができない社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程をとおして、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる人を育成する（中教審答申より）そのため、**キャリア教育**を軸とした教育活動を進め、**基礎的・汎用的能力（「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」）及び郷土愛**をこれからの社会に必要とされる力として、その育成を図る。

2 学校経営の基本

【一ノ木戸ポプラ学園が目ざす子ども】

「ゆたかなかかわりを求めて 夢や希望をもち 未来をひらく子ども」

【教育目標】

「互いに敬愛しあい たくましく 実践する生徒」

【目指す生徒の姿】

「他者とのかかわりの中で 自信を持ちたくましく 夢の実現に向けて挑戦する生徒」

- （1）自らを律し、主体的に考え、判断・決定し、行動できる生徒
- （2）粘り強く学び続け、共に新たな価値や新たな姿を生み出せる生徒
- （3）多様性を尊重し、共に支え合い、高め合い、共にやり遂げる生徒

【目指す学校の姿】

「すべての人の笑顔があふれ、一人一人が光輝く学校」

- （1）確かな学力を保証し育成する学校
- （2）規範意識、思いやりなど豊かな心を育てる学校
- （3）保護者や地域から信頼される学校

【目指す教師の姿】

「人間性を磨き 学び続ける教師」

- （1）生徒を認め、励まし、可能性を伸ばす教師
- （2）一人の人間として、人間性を磨き、高める教師
- （3）自分、生徒、同僚、保護者や地域から学ぶ教師
- （4）高い同僚性及び協調性のある教師確かな学力を保証し育成する学校

3 令和5年度の学校経営の方針

（1）教育活動のキーワード

『自律 創造 協働』

「自律」とは…自分自身（の気持ち、行動など）をコントロール、マネジメントし、より良い自分になることを目指す。

「創造」とは…自律の上に、今の状況をしっかりと見取り、今までを継承するとともに、より良く新しいものをみんなで追求し、創り上げていく。

「協働」とは…仲間や集団の多様性を大切にし、尊重し、それぞれを認め、共に支え合い、高め合い、共に創り出す。

『凡事徹底』 『最小の力で最大限の成果を』

「凡事徹底」とは…当たり前前を当たり前前に徹底して行う。普通のこと、小さいことの積み重ねがやがて大きな力や成果を生み出し、自分自身を高めることにつながる。
「最小の力で最大限の成果を」とは…決して手を抜くことではない。目的をしっかりと見定め、限られた時間やモノの中で、授業や様々な活動の工夫を図る。ICTの活用や指導計画の見直しなどを積極的に進めていく。

(2) 重点事項

①「知る、学ぶ、考える 総合的な学習の時間」を軸に教育活動全体をキャリア教育の基礎的・汎用的能力の育成でつなぐ。

- ・「総合的な学習の時間」を軸に、二中のキャリア教育を進める。
- ・職業学習や地域学習を通じて郷土愛をはぐくみ、地域のよさを知り、地域に貢献できる生徒を育てる。

②すべての教育活動を通じて、「身に付けたい力・心」を育てる。

(身に付けたい生活の基本)「時を守り 場を清め 礼を正す」

☆自律 協働 ◇「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」

(身に付けたい基礎的な力)「聞く(聴く)力 考える力 伝える力」

☆創造 協働 ◇「人間関係形成・社会形成能力」「課題対応能力」

(身に付けたい心)「思いやりの心 他者を受け入れる心 やり抜く心」

☆協働 自律

◇「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング力」

(身に付けたい生活習慣)「起床時刻 学習時刻 就寝時刻」

☆自律 創造 ◇「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング力」

③全ての子どもたちの可能性を引き出す教育を進める。

- ・一人一人の違いや多様性を認め、尊重し、その子の持つ特性を知り、個に応じた支援・指導により持てる可能性を伸ばす。

「個別最適な学びの実現」

生徒の学習状況や生活状況などを確認し、それに適した学習の指導や支援を行う。

「特別支援教育の充実」

特別に支援が必要な生徒の特性や生活上・学習上の困り感を全職員が共有化し、それに応じた支援・指導を講じる。

④よりよい小中一貫教育を推進する。

- ・児童生徒同士、児童生徒と教職員の交流活動を進める。
- ・小中合同研修会において、学園の全教職員が「ポプラ学園の目指す子どもの姿」を共有する。
- ・活用期(小5・小6・中1)の指導・支援を重点化し、9年間を通じたカリキュラムをもとに教育活動を進める。

(3) 具体的な実践

①「知」の分野

「粘り強く学び続ける生徒の育成 ～進んで取り組み、学ぶ楽しさを感じる授業の推進～」

a 三条市授業スタンダードによる実践とICT機器の効果的活用

- ・「◎の学習問題」「見通し」「振り返り」により「主体的・対話的で深い学び」の授業実践
- ・授業や様々な教育活動でのICT機器の活用

b 「指導と評価の一体化」を図る指導計画に基づく授業実践

- ・単元ごとの指導計画を確認し、授業内容や指導方法を確認する教科部会の実施
- ・適切な評価に向けたテストなどによる単元確認の確実な実施

c プランタイムを有効利用した家庭学習習慣の定着

- ・プランタイム（終会(10分)後、5分間）での学年全職員による指導
- d 小中連携による9か年を見通した小中一貫した学習指導
- ・課題や指導計画・方法の共有を図る小中合同研修の実施
 - ・相互参観授業や出前・乗り入れ授業の実施

②「徳」の分野

「自己有用感・肯定感の高い生徒の育成 ～自他のよさを感じる共感的・支持的な人間関係の育成～」

- a 豊かな心をはぐくむ「特別の教科 道徳」授業の充実
- ・確実な授業時間の確保と学年でのローテーション道徳の実施
 - ・「道徳授業」の小中合同授業研究の実施
- b 学級活動、生徒会活動など生徒主体の特別活動の推進
- ・学級の時間（学活）、学年の時間（学年朝会）、生徒会（生徒朝会）の時間の有効活用
 - ・班活動、学年委員会、修成会・専門員会活動の工夫
- c 小中連携や地域を活用した交流・体験活動を実施
- ・リトルティーチャー活動とそれ以外での児童生徒の交流活動の推進
 - ・地域あいさつ運動や地域の活動への参加や職業学習の充実
- d 教育活動全般での人権意識や規範意識の高揚
- ・小中合同「いじめ見逃しゼロスクール集会」の実施
 - ・人権擁護委員の講話など外部との連携
 - ・計画的な道徳や人権教育、同和教育の実施

③「体」の分野

「主体的に自己を管理できる生徒の育成 ～自らの生活習慣の向上を図る取組の推進～」

- a 毎朝の健康観察・生活記録の確実な入力と振り返りの実施
- ・登校後のクロムブックへの入力と確認および指導・支援
 - ・小中合同（小5・6）による実施の推進
- b メディア利用などを含むSNS教育の充実
- ・SNSに関する授業の実施
- c 食育・眠育教育の推進
- ・小中合同学校保健員会の有効的な活用
 - ・給食指導（「食に関する教育」を含む）の充実
- d 生徒の主体性をはぐくむ部活動の充実
- ・部活動の目的・意義を十分に踏まえた指導（教師）※体罰など不適切な指導の禁止
 - ・明確な目標設定とその実現に向けた取組を実施（生徒、教師）